

令和元年度（平成31年度）「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 平成31年4月16日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立鮫浜小学校

【教科：国語】

(1) 各教科の定着状況についての概要

2・3・5・6年生は、ほとんどの領域において、目標値を上回ることができた。特に、2・3年生は、目標値より3～4ポイント上回っており、2年生の「基礎の力」は、6ポイント上回っている。4年生の「話の内容を聞き取る」「物語の内容を読み取る」では、目標値を5ポイント上回った。昨年度から行っている、語彙を増やしたり指示語を明確にしたり、読書量を増やしたりするための取組の成果が見られた。

2・3・5年生では「漢字を書く」、4年生では「漢字やローマ字を書く」「作文」、6年生では「漢字を書く」「作文」「物語の内容を読み取る」が、全般的に目標値より低く課題が見られた。

経年での結果を見ると、昨年度より2・4・5・6年で3～5ポイント上回っている。

(2) 具体的な課題

【課題1：漢字の習得】

二文字の熟語のうち、一文字だけ間違っている。画数の多い熟語は、無回答の傾向にある。

言葉の意味を理解せず、部首が同じなどの似ている漢字を書いている。

「働く」を「働らく」と書くなど、送り仮名が間違っている。

【課題2：文章を書く】

4年生、6年生の文章を書く問題では、無回答の児童が全体の4分の1程度いた。

字数制限よりも短く書いていたり、理由を書いていなかったりしている。

設問に正対する形で書かず、聞かれていることから外れた内容を書いている。

(3) 課題の原因として考えられること

【課題1について】

画数が多い漢字や、送り仮名が定着していない。

漢字の成り立ちや意味が未定着で、部首が同じなど似た字形の漢字を混同して覚えている。

【課題2について】

聞かれていることを正確に読み取れない。

聞かれていることに対して、何をどのように書けばいいか理解できない。

「段落」や「主張」「理由」「まとめ」といった、文章構成についての理解が弱い。

(4) 課題解決のための方策（取組指標）

【課題1について】

○漢字の習得・定着のための学習の指導方法の工夫・改善

書き順・辺とつくり・唱える・パーツで分けるなど、漢字指導をする際にいろいろな覚え方の指導を取り入れ、児童の興味・関心を高める。(2学期より)

漢字を使った単語や短文作りをさせる。(2学期より)

漢字を身近なものに感じられるよう、各学年で学習する漢字を掲示する。(2学期より)

学校地域支援本部と連携して、日本漢字検定協会の「漢検」の参加を昨年度に引き続き促進する。(2月)

【課題2について】

○文章読解能力と書く力の向上のための指導方法の工夫・改善

教員による推薦本を、進んで読ませる取り組みを引き続き行う。

国語の説明文や物語単元の学習を通して、文章構成や段落についての細やかな指導を引き続き行う。

学校行事を振り返ったり、社会科など他教科と関連付けしたりした作文指導を引き続き行う。

(5) 次年度の数値目標（成果指数）

全学年・全領域に関して、目標値を上回る。

漢字の書き取り正答率を、今年度比5ポイント以上向上させる。

【教科：社会】

（１）各教科の定着状況についての概要

4～6年生のすべての学年で目標値に達している。とくに、4年生は、観点「社会的事象についての知識・理解」で目標値を5ポイント上回った。用語をおさえ、繰り返し反復学習を行ったことが知識の定着につながった。5年生は、領域「安全を守る活動」、6年生は、問題「世界の中の国土」に課題がある。

経年での結果を見ると、5年生は伸びている。6年生は昨年度と同様に「世界の中の国土」が目標値よりも約10ポイント下回っているため、本校の児童にとって特に課題であると考えられる。

（２）具体的な課題

【課題１：基礎的な知識の定着】

社会科で使われる用語や言葉の意味や地図記号、大陸や国の名称、位置等が十分に理解できていない部分がある。

【課題２：資料の読み取りと活用】

資料を読み取り、読み取ったことを表現することができない。

資料が複雑になると何を表しているのか、内容を理解できない。

【課題３：文章読解】

文章を文脈に沿って読み取っていないこともあり、問題内容が理解できない。

問われていることが、読み取れていない。例えば、問題文に「正しくないものを選ぶ」とあっても、正しいものを選んでしまっている。

（３）課題の原因として考えられること

【課題１について】

社会科の基本的な知識が定着していない。

【課題２について】

資料の読み取りの技能がまだ身に付いていない。

資料からポイントになる言葉を見つけて、問題の意図に沿った文にまとめることが難しい。

【課題３について】

文章読解の力が定着していない。

問題文や説明文を断片的に読んでしまう。

（４）課題解決のための方策（取組指標）

【課題１について】

社会科において必要な用語やその意味を各単元で確実に身に付けさせる。

基本的な知識の定着と資料の意味を理解しているかを、定期的に小テスト等で確認する。

【課題２について】

3年生から、系統的・段階的に地図の見方、資料の読み方の基礎を指導し、その特徴を捉えられるようにする。

（2学期より）

資料を読み取り、分かったことを発表したり意見を交換したりする機会を授業の中で増やす。

市民科や理科など、他教科を含め国土の位置に関して、積極的に指導を行う。

【課題３について】

社会科の教科書を読ませる機会を増やし、その内容の理解を確実に理解させる。

国語など他教科も含め、日常的に文章を読む機会を増やす。（2学期より）

文章を読み取る力を定着させるため、基礎の時間に文章読解に取り組みさせる。（4年生で週1時間程度）

（５）次年度の数値目標（成果指数）

全ての観点の正答率で目標値を上回る。

活用に関して、目標値を5ポイント以上上回る。

【教科：算数】

(1) 各教科の定着状況についての概要

全学年の基礎問題において、目標値を上回ることができた。特に、2・4年生では6ポイント、4年生では5ポイントを上回った。昨年度から帯時間等を使い、基礎計算の反復学習を徹底して行っており、その成果が表れている。活用問題においては、2年生は目標値を10.8ポイント上回ったものの、3～6年生では目標値を下回った。

経年での結果を見ると、標準スコアにおいて全学年に伸びが見られた。

(2) 具体的な課題

【課題1：計算の確実性】

4年生の2桁×2桁の計算問題で、誤答が多かった。5年生の小数第一位+整数の計算問題で、位を揃えず計算していることが多かった。6年生の小数×小数の計算問題で、誤答が多かった。

【課題2：図形問題】

2年生では三角形のパネルを使って作った形から広さを比較する問題・3年生は箱の形の辺の長さからテープが測れるかどうかの問題・5年生は平行四辺形の性質に関わる問題・6年生では五角形の内角の和を求める問題で、誤答や無答が多かった。

【課題3：文章を読んで説明する問題】

各学年において、文章を読んで立式したり文章に当てはまる式を選んだりする問題・図形について説明する問題・グラフの解釈とその説明をする問題・百分率とその説明など複合的な要素の問題で、誤答や無回答が多かった。

(3) 課題の原因として考えられること

【課題1について】

計算の意味の理解が、不十分であること。基礎的な計算問題の繰り返し練習が不足している。九九の定着も不足している。

【課題2について】

具体物などを使った学習不足などから、形の概念をつかめていない。

【課題3について】

文章の意味を読み取る力、与えられている条件をもとに筋道を立てて理由を説明したり書いたりする力が不足している。

(4) 課題解決のための方策（取組指標）

【課題1について】

帯の時間などを活用し基礎計算問題の習熟を図ったり、授業の始めに5問テストを行ったりすることを、引き続き行う。問題を精選して、苦手な部分に集中的に取り組ませる。

【課題2について】

具体物やICTなどを効果的に活用し、触覚・視覚などを使った学習を進める。形の概念をつかみやすくしたり、図形が動く様子や角度の成り立ちなどを視覚的に習得させる。

【課題3について】

ビブリオバトルや本紹介など読書活動を充実させ算数読解力につなげていく。また、ワークシートやドリルなどを活用し、多様な文章問題に触れさせる機会を増やす。深く考える習慣を付けるために、一問一問丁寧にじっくり解く授業スタイルを用いる。

(5) 次年度の数値目標（成果指数）

全学年・全領域に関して、目標値を上回る。

計算問題の正答率を、5ポイント以上向上させる。

【教科：理科】

(1) 各教科の定着状況についての概要

4、6年生は、基礎・活用共に目標値を上回ることができたが、5年生は基礎・活用ともに目標値を下回ってしまった。しかし、どの学年も無回答は少なく、何かしらの答えを書いている。共通しての苦手な分野は、「生命・地球」の領域である。学年で見ると、4年生では「植物の育ち方」、5年生では「天気の様子と気温」「月と星」「動物のからだのつくりと運動」、6年生では「天気の変化」「花のつくりと実」が目標値を下回っていた。

経年での結果を見ると、標準スコアにおいて、5・6年生ともに伸びている。特に、6年生は全国平均を超えることができた。

(2) 具体的な課題

【課題1：成長や変化の様子を観察するなど、長期的に学習をすすめるもの】

植物の成長や天気など、継続して観察することが必要な単元での誤答が多かった。

【課題2：実験をして学習をすすめるもの】

4年生の「電気の通り道」、6年生での「顕微鏡の使い方」「ふりこのきまり」など、実験を元に答える問題に課題があった。

(3) 課題の原因として考えられること

【課題1について】

植物の成長や天気など、継続して観察することが必要な単元は学習が定着していないと考えられる。「見る（観察）」という活動の中で、何を学ぶか、視点が定まっていなかったことが推測される。

【課題2について】

授業中に実験したり観察したりする機会の少ない内容に、誤答が多かった。目的を達成させるために、実験の条件を整えたり、正しい手順で実験を行ったりする技能に課題があることが考えられる。

(4) 課題解決のための方策（取組指標）

【課題1について】

年間指導計画を見直し、気候や天気の変化などの影響を受けにくいように計画的に指導を進めていく。観察する前に、観察のポイントを具体的に伝え、何を学ぶのかを明確にして観察をさせる。また、帯の時間や学習時間の前後5分間などに観察タイムを設けて、観察できる環境を整える。

【課題2について】

顕微鏡やふりこの扱い方を、丁寧に指導をする。実験の条件を整え、児童同士でも教え合うことができるよう働きかけ、正しい手順で実験できるようにする。また、児童の生活と学習内容を結び付けた発問をし、予想を立てた上で実験や活動を行う。そして、文や絵や図を使い、自分の言葉でまとめさせる機会を増やし、考察できるようにしていく。

(5) 次年度の数値目標（成果指数）

全学年・全領域において、目標値を上回る。